

電信案

外務省

軍側より音地武友宛を旨通電々々貴使  
 2 於ア又右より適宜措置アリタシ

(原議用紙)

見合

(分類)

電 信 案	第	暗	電送第	號	主管
		至	昭和	年月日	歐亞局長
外 務 省	第	件	名	宛	主任
		案	入	中山公使	第一課長
		件	名	宛	發
		案	入	中山公使	相田大匠
		件	名	宛	發
		案	入	中山公使	相田大匠
		件	名	宛	發
		案	入	中山公使	相田大匠

昭和 4 年 11 月 11 日

(日本標準規格 B5)

F-0354

0270

極秘

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

分類

昭和14 一一八二六 暗

テヘラン 四月十八日後發 十九日前着

歐

有田外務大臣

中山公使

第七五號 極秘

往電第六一號ニ關シ

訪「イ」飛行ニ依リ對日好感一際増進シタル此ノ際該案ニ對シ同意ヲ與ヘラレ事實上ノ成立ヲ見ルコトヲ得ハ航空問題其ノ他萬事ニ好都合ナルニ付右至急御詮議ヲ進メラレ御承認相成様致度ク御同電ヲ請フ

(了)

外務省

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

分類

昭和14 一一九一六 暗

テヘラン 四月十九日前發 十九日夜着

歐

有田外務大臣

中山公使

第七六號

往電第七二號ニ關シ

藤原航空長官へ大久保ヨリ  
十八日小官及鶴岡事務官「イラン」陸軍大臣ヲ往訪、訪「イ」ノ挨拶ヲナシ遞信大臣ヨリ「メッセージ」ヲ手交シタル後、日「イ」航空聯絡問題ニ付會談小官ヨリ日「イ」兩國提携シテ交通文化ニ貢獻スルノ意思アルコト「イ」國方早クモ「バグダッド」へ航空路ヲ拓キタルニ付敬意ヲ表シ居ルコトヲ傳ヘタル上東西文明融合ノ爲「イ

外務省

寫送先

祕書官 會文儀人調文情條通米歐東  
計書典事查化報約商洲亞亞

大臣 次官



電信課長



分類 F1100.3

側カ波斯灣ノ總航空路ヲ日本政府ノ指定スル航空會社ニ許可スヘキ  
 旨希望ヲ表明シタル處陸軍大臣ハ自分モ亦世界交通ニ貢獻セントシ  
 居ル處「イラン」ハ航空路ノ發達ト共ニ漸次其ノ中心ト成ルヘク又  
 其ノ中心トスルコトヲ理想トシ居リ日本ニ對シテモ各國ニ對スルト  
 同様ノ許可ヲ與フヘント好意アル同答ヲナシ日「イ」航空交渉ノ關  
 心ヲ示シタルヲ以テ外務省側ニモそよかぜ號來「イ」ノ機會ニ航空  
 交渉ヲ促進スル如ク聯絡賜ハリ度ク親善飛行ニ依ル交渉促進ハ相當  
 ノ效果ヲ認メラルルニ依リ先電復航經路變更方至急御取運ヒ願上ク

(了)

外務省

本邦ノ航空交渉件

昭和14 一一九五四 暗 伯林 四月十九日後發 歐  
本省 二十日前着

有田外務大臣 大島大使

第(脱)號

「イラン」發貴大臣宛電報第七一號ニ關シ

そよかぜ號ヲシテ引續キ獨伊ヲ訪問セシムルコトハ歐亞航空路調査  
 ノ爲有益ナルノミナラス獨側モ之ヲ希望シ居ルヲ以テ之ヲ實現セシ  
 ムル様御配慮煩度シ  
 本電白鳥大使ト打合濟  
 伊、「イラン」へ轉電セリ

外務省

寫送先

秘書官 會計 文書 儀典 人事 調查 文報 情報 條約 通商 米亞 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長

分類

昭和14 一 二一〇六 暗 本 省 四月廿 日後發 歐

有田外務大臣 中山公使

第七七號

藤原航空局長官へ大久保ヨリ

十九日陸軍省「ホスロウワア」航空局長官（軍航空及民間航空  
 主管長官）ヲ往訪十八日「ジャバン」陸軍大臣トノ談合同様日本「  
 イラン」航空聯絡ニ關シ同長官ノ意嚮ヲ打診シタル處航空局トシテ  
 ハ技術上豫見セラルル支障ナシト回答セリ尙二十日そよかぜ號一行  
 ハ中山公使ノ紹介ニテ「ジャム」總理大臣ニ面會平沼總理ノ「メツ  
 セー」ヲ交付シタル後航空聯絡解決方促シタル處右ハ外務省ト論

外務省

(分類)

電信課長	主管	有田外務大臣
	主任	中山公使
發電係	發	有田外務大臣
電送第 9517 號	昭和 14 年 4 月 19 日	電送時間 14 時 19 分
件名	航空局長官ヨリ大久保へ	
第 四九 號	メツセーの件 変更 差支ナシ	
記録件名	イラン航空局長官ヨリ大久保ヨリ	

(日本標準規格 B5)

F-0354

0273

議スヘキ問題ナルカ自分ハ波斯灣ニ沿フ航路ニ關シテハ支障ナカル  
ヘキモ「テヘラン」乗入ニ關シテハ解決困難ナルヘキ旨回答セリ  
各方面トノ會見ノ印象ヲ綜合スルニ波斯灣ニ沿フ南方航路ニ關シテ  
ハ許可取付可能ナリト思料セラル但シ右ノ許可ハ毎回ノ飛行毎ニ與  
ヘラルルコトトナル趣ナリ尙「ジャバン」航空局長官ヨリ聞知シタ  
ル「イラン」ノ國內航空路計畫左ノ如シ

- (一) 「テヘラン」―「アンカラ」―「イスタンブル」
- (二) 「テヘラン」―「メシエド」
- (三) 「テヘラン」―「ブシール」
- (四) 「テヘラン」―「ジャデルジャブヤニ」
- (五) 「テヘラン」―「ジャスク」

外務省

(六) 「テヘラン」―「ジャデルアバス」  
(七) 「テヘラン」―「カラチ」  
國內航空路ニ使用スル飛行機ハ目下「デフワビラン」四人乗ヲ使用  
セル處將來八十人乗ト致度キ意嚮ヲ洩ラシ居レリそよかぜ號ハ當地  
ニ來飛セル各國航空機中ニ在リテモ好評ヲ博シ居レリ  
往電第七四號復航終路變更方至急御指示ヲ請フ(了)

外務省

原簿	ハ
種別	3
項目	5
日付	0
備考	5-17

(分類 F. 1. 10. 0. 3 )

昭和14 一 二 一 一 一 暗  
 有田外務大臣  
 第七八號(極秘扱)  
 本 省  
 四月二十日後發  
 廿一日前着  
 中山公使

二十日午後四時隨員ヲ從ヘ參内宮廷内庭ニ於テ君カ代吹奏禮ヲ受ケタル後皇帝陛下ニ拜謁シ外相ノ通譯ヲ以テ左ノ要領ヲ言上セリ即チ本使特派大使ニ任命ノ光榮ヲ述ヘ我カ皇室ヨリノ御祝辭ヲ述ヘタル後兩皇室ノ親善關係並ニ其ノ永久變リナキコトヲ願フ意味ヲ述ヘ次テ今回ノ奉祝飛行ニ依リ兩國間ニ介在スル大ナル距離ハ兩國親善ノ障礙トナラサルコトヲ證明シタルコト並ニ日本國民舉ツテ皇帝陛下ノ國民ノ友人トシテ且兄弟トシテ協力スルコトヲ望ミ居ル旨ヲ述ヘ最後ニ皇帝ノ御健康兩殿下ノ御幸福及「イラン」皇室ノ隆昌ヲ願フ旨英語ヲ以テ述ヘタル處陛下ヨリ今回ノ慶事ニ付我カ皇室ヨリ特派大使任命ヲ謝シ次テ右ニ付飛行機ノ派遣ヲ併セテ感謝スル旨ヲ

(日本標準規格B5)

外 務 省

述ヘラレ且「イラン」國民ハ常ニ日本國民ヲ尊敬シ居リ日「イ」兩國ノ國交日ト共ニ親密ナランコトヲ希望シ居レリ尙我カ皇室隆昌ヲ願フ旨我カ皇室ニ傳達センコトヲ依頼スト御言葉アリタリ次イテ各隨員ヲ御紹介申上ケタル處江口少佐ノ正裝ノ帽子ニ御興味ヲ持タレタルカ如ク自ラ御手ニ取り眺メラレタリ右ニテ皇帝陛下ノ拜謁ヲ終リ皇太子殿下ニ拜謁ヲ仰付ケラレ我カ皇室ニ於テ殿下ノ御慶事ノ趣ヲ聞シ召サレ御贈品アリタル旨ヲ申上ケテ之ヲ贈呈セリ次テ本邦ヨリ大日本航空會社カ大ナル苦心ヲ以テ櫻ノ生花ヲ飛行機ニテ持參シタル次第ヲ御説明申上ケ飛行中一切ノ注意ヲ爲シ來リ獻上ノ最後ノ瞬間迄右櫻ト分離シ難キモノトシテ同社代表永淵ヲ御紹介申上ケタル處殿下ハ先ツ日本皇室ヨリノ御贈品ニ對シ大ナル謝意ヲ表セラレ且「イ」國民ト兄弟タル我カ國ノ祝意ニ對シテモ感謝シ我カ皇室ノ御祥福ヲ祈ル旨傳送方依頼ストノ御言葉アリタリ且殿下ハ常ニ日本ノ櫻ヲ稱讚スト述ヘラレ其ノ高貴ヲ稱讚アリタリ(了)

(日本標準規格B5)

外 務 省

F-0354

0275

電信課長

大臣

次官



東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和14 一二一九九

暗 本 省 四月廿一日後發

歐

有田外務大臣

中山公使

第七九號

往電第七七號ニ關シ

藤原航空局長官へ大久保ヨリ

「イラン」國要路ト會見ノ結果波斯灣ニ沿フ通過許可ハ確實ナルニ付日獨南方線實現ノ爲ニハ印度ノ許可取付ハ最モ急ヲ要スルモノナル處印度通過ニ關シテハ英本國政府ノ承認ヲ要スル次第ナルヲ以テ右交渉ヲ急速ニ進メラルル様外務省ト御聯絡ヲ請フ尙日「イ」航空聯絡及日獨間ニ於ケル南方「コース」ノ必要ナル取極ハ羅馬及伯林

分類

外務省

ニ於テ折衝ノ豫定ナリ「イラク」ノ許可取付ハ七月一日「バクタッド」ニ公使館開設ノ豫定ナレハ之ト同時ニ解決致度キ希望ナリ「シリヤ」及佛印通過ニ付テハ福岡臺北乘入ニ關聯シ佛側ノ意嚮判明シ居ラハ小官伯林ニ於テ聯絡ノ都合モアリ至急御回電アリタシそよかぜ號ノ伯林往訪飛行ニ關シテハ獨伊側モ之ヲ希望シ居ルハ在獨逸大使發貴大臣宛電報第三六六號ノ通りナリ(了)

外務省

電 信 案	伯 林 留 馬 追 加 飛 行 件 目 下 折 衝 中	大 久 保 書 記 官 へ 航 空 局 長 ヨリ	電 第 七 二 号 ニ 関 シ	暗 送 第 一 号 9818 昭和十四年四月二十二日午後一時一分發	主管 電信課長 三島長	主任 第一課長 五	昭和十四年四月廿二日起
					宛 在 イ ラ ニ 中 山 公 使	名 件 之 よ り 伯 林 留 馬 追 加 飛 行 件 一 件	發 有 田 大 臣

(分類)

電信課長

主任

昭和十四年四月廿二日起

22 13

(日本標準規格B5)

寫  
送  
先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

大臣  
次官  
了

電信課長

分類

外  
務  
省

昭  
和  
14  
一  
二  
一  
九  
七  
略  
テ  
ヘ  
ラ  
ン  
四  
月  
廿  
一  
日  
後  
發  
本  
省  
廿  
一  
日  
夜  
着  
情

有田外務大臣  
第八一號(依頼電)  
東京日日新聞社長へ永淵ヨリ  
貴社聯絡ノ「ユービー」記者打電費少キ爲優先的報道ヲ爲ス爲ニハ  
新聞電報内地拂ノ處置セララルヲ要ス江口、鶴岡、小生等記者ニ好  
意ヲ有シツツモ處置ニ苦シミ居レリ(了)

中山公使

F-0354

0277



寫送先

秘書官

計書

典事

査化

文情

報約

通商

米洲

歐亞

東亞

人調

文情

報約

通商

米洲

歐亞

東亞

人調

文情

報約

通商

米洲

歐亞

東亞

人調

次大臣

電信課長

分類 F110.0.3

昭和14 一二三八三

暗

カブール 本省

四月廿三日後發 廿四日前着

歐

有田外務大臣

守屋公使

第四五號

「イラン」發貴大臣宛電報第七一號ニ關シ

そよかぜノ「イラン」飛行ニ付豫メ御訓電又ハ通報ニ接セス當國政府啓發上少シク遺憾ニ思ヒ居タル矢先唐突ニ出先ノ思付トシテ「カブール」飛行ノ件來電ニ接シ當國ノ空氣ヨリシテ斯ノ如キ手輕ナル交渉振ニテハ成功覺束ナキコトヲ知悉スル本使トシテ其ノ取扱ニ窮シタル次第ナル處二十一日ハ恰モ本使ニ於テ事前ノ打合ト共ニ「シヤ。ワリ。ハン」殿下（目下國務ニ參畫スル爲歸朝中ノ在佛公使ニ

外務省

記録係本邦人航空関係事件

電信案

外務省

直報

ナルモ實現ニハ相当困難ナル事情アリ但シチカブール「カブール」往復飛行ハ實現ニシテハ先般ノ如クハ早急準備アリテ決定次第

(原議用紙乙)

寫送先

祕書官

門類	11
項目	10/0
號	00
分	13/14

本信寫挿入先

大臣 次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事

電信案

外務省

(原議用紙乙)

ナルモ實現ニハ相当困難ナル事情  
アリ但シナリトモ「カブール」往復ハ飛行  
ハ實現ニ至ルニ至ク工作中ナリ 決定次第  
直報

記録件名本邦人航空保存案件

昭和14 一二三八三 暗

カブール 四月廿三日後發 本省 廿四日前着 歐

有田外務大臣

守屋公使

第四五號

「イラン」發貴大臣宛電報第七一號ニ關シ

そよかぜノ「イラン」飛行ニ付豫メ御訓電又ハ通報ニ接セス當國政  
府啓發上少シク遺憾ニ思ヒ居タル矢先唐突ニ出先ノ思付トシテ「カ  
ブール」飛行ノ件來電ニ接シ當國ノ空氣ヨリシテ斯ノ如キ手輕ナル  
交渉振ニテハ成功覺東ナキコトヲ知悉スル本使トシテ其ノ取扱ニ窮

次第ナル處二十一日ハ恰モ本使ニ於テ事前ノ打合ト共ニ「シ  
リ。ハン」殿下(目下國務ニ參畫スル爲歸朝中ノ在佛公使ニ


外務省


F-0354

0279

寫送先

秘書官 會計書 儀典 人調事 文查化 情報約 條通商 米洲 歐亞 東亞

次官 

電信課長 

F11003

シテ總理ノ實弟ハ之ニ次ク實權者、日本ヲ了解スルコト深シト日  
 阿國交諸問題ニ關シ第二回目ノ懇談ヲ爲ス豫定ナリシヨリ本使ニ於  
 テ夢寐ニモ忘レサル日阿聯絡飛行ニ關スル阿富汗政府最近ノ意嚮ヲ  
 打診スル一助トモナラント考ヘ極秘ノ旨ヲ以テ來電ノ趣旨懇談セル  
 ニ幾分興味ヲ唆ラレタル様認メタルモ何レ總理ト相談ノ上回答スヘ  
 シトテ何等ノ意思表示ヲ爲サス二十三日往訪ノ本使ニ對シ總理及陸  
 軍大臣ト相談ノ結果一定ノ目的ナキ飛行機ノ往訪ハ國民ノ疑惑ヲ招  
 キ且時局柄國際的誤解ヲ醸成スル惧アリ遺憾乍ラ歡迎シ難ク右ノ事  
 情諒察ヲ請フ旨外務大臣代理ヨリ回答アリタリ(了)

外務省

本館之航空部係案件

昭和14 一二四七二 暗

カブール 四月廿四日後發 廿五日前着

歐

有田外務大臣

守屋公使

第四志號

本使發「イラン」宛電報第三號

貴電第二號ニ關シ

阿富汗政府ノ意嚮ハ別電第二號ニ依リ御承知ヲ請フ尙本件ニ付テハ  
 責任國駐劄阿國大使ヨリモ政府ニ電報越シ本使ニ對スルト同様ノ意  
 見ヲ申遣リタリト外務大臣代理ハ語レリ(了)

外務省

寫送先

秘書官 會計 文書 儀典 人調 文情 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次大臣 官

電信課長

分類

昭和14 一二五五三 暗 本 省 四月廿五日後發 歐

有田外務大臣 中山公使

第八二號

貴電第五二號ニ關シ(そよかぜ號「カブール」訪問ニ關スル件)

藤原長官へ大久保ヨリ

訪阿親善飛行ニ關シ御高配ヲ深謝スそよかぜ號ハ廿五日空中分列式ニ參加(大久保、永淵、高品同乗)「イラン」機透導ノ下ニ右方ノ伊太利後方ノ土耳其機ト編隊飛行シ皇帝ノ御親謁ヲ受ケタリ(獨逸ノ輸送機英國ノ軍用機ハ速力不足ノ爲參加セス)

尙總理以下各大臣及軍人ハ特別ニそよかぜヲ參觀シ何レモ口ヲ極メ

外務省

(分類)

電信課長

外務省

(日本標準規格B6)

カブールニ往復飛行ノ件 第八二號

大久保へ航空局長官ヨリ

電送第 9952 號	主管	歐亞局長
昭和十四年四月廿四日 午後九時二分發	主任	電信課長
件名	宛	中山公使
第五二號	在イラン	發有田大臣
カブールニ訪問ノ件	記録件名	

電信課長

昭和十四年四月廿四日

21 60

寫送先

分類 7.1.10.9.3

秘書官 會文儀人調文情條通米歐東  
計書典事查化報約商洲亞亞

次大臣  
官

電信課長



昭和14 一二七三四 略

本省

四月廿六日後發  
廿七日後着

歐

有田外務大臣

第八二號

海軍省及軍令部ノ副官へ江口少佐ヨリ

二十五日ヲ以テ御婚儀關係行事ヲ完了セリそよかせ號ノ行動未タ確定セサルモ五月中旬「バグダッド」或ハ盤谷ニ於テ便乗ノコトトシ十七日當地發近東巴爾幹方面ヲ視察セントス（了）

本邦人航空飛行機

外務省

テ稱讚シ居レリ將來當國へノ航空機賣込ヲ考慮スルヲ要ス御婚儀諸行儀ハ廿五日終了シ波斯灣通過定期航空許可ノ了解ヲモ遂ケタルヲ以テ直ニ訪阿飛行ニ移ルヘク飛行許可取付中ナリ尙豫テ御盡力ヲ辱フシ居ル獨伊訪問ノ件何分ノ儀御回電アリタシ（了）

外務省

電信課長



大臣

次官



東亞

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文書

調査

人事

儀典

文書

會計

分會

秘書官

寫送先

昭和14 一二七五二

暗

テヘラン 本省

四月廿六日夜發

歐

有田外務大臣

第八四號

貴電第五二號ニ關シ

阿富汗宮内、外務兩大臣祝賀ノ爲當地滞在中ナル上阿國新大使モ來任シタルニ付本件ニ關シ非公式ニ新大使及外務大臣ニ阿側ノ意嚮ヲ質シタル處<sup>?</sup>新大使ハ亞細亞ノ兄弟トシテ益々親善關係ヲ増進センコトヲ希望スルニ付本飛行ハ歡迎スヘク早速電照スヘシト言ヒ居タル矢先貴電第五二號ニ接シタルヲ以テ阿國政府ニ對シテハ守屋公使ヨリ正式交渉アルヘキモ幸ヒ外務大臣モ滞在中ニモアリ右許可取付方

外務省

便宜上當地ニ於テ同大使ニ話合ヒタル處同大使ハ飛行許可附與ヲ本

國ニ請訓シタルカ同大使ノ意見トシテハ現在「カブール」カ雨季ナルニ付飛行場ノ狀態惡シキヤモ計ラレサルモ然ラサレハ阿側カ許可ヲ拒否スヘシトハ考ヘラレスト述ヘ居タルカ之ニ反シ守屋公使ヨリハ閣下宛電報第四五號ノ次第アルヲ以テ大使ニ改メテ阿側ノ意嚮ヲ質シタル處自分トシテハ右電報ノ趣旨ヲ「コンファーム」スルヲ得ス何レ本國ヨリ回電アリ次第御傳ヘスヘシト答ヘ右許可ノ困難ヲ信セサル次第ナリ就テハ守屋公使ニ本件飛行阿側許可取付方御訓電相成様致度シ尤モ阿國外務大臣滞在中本使ニ於テモ側面ヨリ御手傳ヒ致スヘキハ勿論ナリ

阿富汗へ轉電セリ

外務省

(分類)

電 信 案	電 送 第 10147 號	主管	歐亞局長
		主任	第一課長
外 務 省	昭和十四年四月二十六日	宛	在アアガニヌニ
	件名	宇屋公使	發
	第 二 一 號	カブリス部内	有田大臣
		取止ノ一件	
		記録件名	

本大臣等アアガニヌニ宛電報第五六号

(本 転送 ノット)

昭和十四年四月廿六日

電信課長 發電係

28 98

(日本標準規格B5)

大臣 次官 電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人典 儀典 文書 會計 會社 祕書官

寫送先

昭和14 一二七一九 暗 蘭貢 四月廿六日後發 本省 廿七日後着 歐

有田外務大臣

第七一號

「イラン」發本官宛電報

第一號

訪「イ」祝賀そよかぜ號ハ當地官民ノ熱誠ヲ謝シ歸路ノ豫定中ニ五月中旬貴地ニ泊ヲ加ヘタリ

大臣へ轉電アリタシ

外務省

久我領事

F-0354

0284

電信案	外務省	訪問ノ件種々交渉シタルニ実現ノ運ニ
		至ラス乍遣域取止ルコトニ決定セリ

(原議用紙乙)

(分類)

電信案	外務省	電送第 10036 號	主管	電信課長
		昭和十一年四月六日	主任	發電係
件名	宛	記録件名	發	
部内取止ノ件	在 中山公使		有 田 大 臣	
第五四號				
往電第五一号ニ関シ				
大久保ハ欽差局長官ヨリ				
是ヨリ伯林四級馬				

昭和十一年四月五日

26 4

(日本標準規格B5)

F-0354

0285



(分類)

電信案	件... 多分事情ニ因リ実現不可能ト	「アフガニスタン」報本大臣宛電報第四五号ニ関シ	是よかせ号復航ニ関シ柏林羅馬訪問	電送第 10146 號	主管
				昭和十四年四月八日午後十時十分發	電信課長
		件名宛	在イラニ	歌野局長	主任
		取上ノ件	中山公使	第二課長	
		記録件名	發有田大臣	昭和十四年四月廿二日	
		第五六號			

(日本標準規格B5)

(分類)

電信案	件... 多分事情ニ因リ実現不可能ト	「アフガニスタン」報本大臣宛電報第四五号ニ関シ	是よかせ号復航ニ関シ柏林羅馬訪問	電送第 10040 號	主管
				昭和十四年四月廿六日午後十時十分發	電信課長
		件名宛	在イラニ	歌野局長	主任
		取上ノ件	中山公使	第二課長	
		記録件名	發有田大臣	昭和十四年四月二十百起	
		第五五號			

(日本標準規格B5)

F-0354

0286

電  
信  
案

外  
務  
省

ノ結果既ニ實現ノ見込キ居ル場合  
ハ格別然ラサル<sup>ニ於テ</sup>ハ本件<sup>ニ</sup>行ハ  
取止ノ外ナシト被<sup>レ</sup>存  
アウガニスタシヘ<sup>テ</sup>特電セリ

(原議用紙乙)

電  
信  
案

外  
務  
省

ナリ切メテカ「ボール」訪問タケニテ  
ニ實現サセタク存シ居タルニ本件  
ニ付テハ冒頭電報~~ハ~~通リ  
阿國例ニ於テ難色アリ<sup>斯ル</sup>際事  
情ノ下ニ強ヒテ本件親善<sup>ヲ</sup>行  
行フコトハ抑テ逆效果ヲ来ス  
堪レモイルニ付<sup>テ</sup>當地ニ於ケル交渉

(原議用紙乙)

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和14 一二七六五

暗

テヘラン 本省

四月廿七日 後發 廿七日夜着

歐

有田外務大臣

中山公使

第八六號 (至急)

貴電第五六號ニ關シ(そよかぜ號「カブール」訪問取止ノ件)

二十六日伊太利公使館「レセプション」ニ於テ阿富汗大使ト會談ノ  
機ヲ得タルヲ以テ同國ニ於テ本飛行ニ難色アル理由ニ付懇談ヲ遂ケ  
タル處同大使ハ政府ニ於テ拒絕スヘシトハ考ヘサルモ若シ拒絕スル  
コトアリトセハ其ノ理由ハ右飛行ニ付或外國ハそよかぜ號カ航路ヲ  
誤リタリト稱シ國境方面ニ向フカ如)キコトアルヤモ知レサル場合  
ヲ假想シ苦情ヲ特込ムコトアルヘキヲ惧ルルニアルヘキコト等具體

分類

外務省

的ニハ結局英蘇兩國ノ苦情ヲ惧レ居レルコトヲ看取シタルニ付然ラ  
ハ「テヘラン」ヨリ「カブール」へ直線路ヲ飛行スルコト乗員ハ「カ  
ブール」着後一二泊スルノミニテ他地方ニ旅行セサルコト等ノ條件  
ヲ附セハ右ノ困難モ解消スル次第ニアラスヤト申入レタル處同大使  
ハ實ハ自分モ同意見ニテ右ノ趣旨ヲ本日更ニ電報シタル次第ニ付政  
府ヨリ回答アリ次第御知ラセ致スヘシト答ヘタリ  
阿富汗へ轉電セリ

外務省

(分類)

電 信 案

外 務 省

本大臣等アフガニスタニ宛電報第ニ号  
(拓電ノコト)

電送第 昭和十四年四月二十八日 1040	主管 局長 主任 第一課長
件名宛 イラン 中山公使	発 布 外 大臣
件名宛 イラン 中山公使	記録件名

昭和十四年四月二十八日起

23 76

(日本標準規格B5)

寫 送 先

次 官 大臣

電信課長

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 會社 祕書官

分類

昭 和 14 一 二 八 一 七 略

本 省

四月廿七日後發  
廿八日前着

歐

有田外務大臣

第八五號

江口少佐二十七日羅馬へ出發セリ(了)

中山公使

外 務 省

F-0354

0289

電信案																						

(原議用紙乙)

(分類)		電送第 10410 號		主管
電信案	昭和	年	月	日
	4	4	8	10
電		時		分
信		10		41
案		宛		中山 公使
		日本級多ヨリノ		在
		係電		イラシ
		第 五九 號		主任
		依頼電報		長
		務		昭和十四年四月廿八日
				有田 大臣
		記録件名		
		發		
		石川ヨリ永湖へ		
		伊田益材ハ原案通り「フィアット」採用		
		ノ方針ニテ陸軍ヨリ全畫院ニ		

電信課長

發電係

電報

昭十四年四月廿八日

有田 大臣

(日本標準規格B5)

F-0354

0290

電信案

外務省

早回電アリタシ  
 アラニハ転電セリ

(原議用紙乙)

(分類)

電信案

外務省

電送第 10399 號

4. 月 28 日 10 時 40 分

件名 宛 在

右末電ノ次第ニアルニ付(貴便ノ御裁量ニテ) (許可取付方)

今一應阿田側ト御交情相成結

記録件名 發 揮 田 大 臣

主任 第二課長 佐々木

昭和十六年四月廿八日 起

電信課長

發電係

75

(日本標準規格 B5)

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和14 一三一六〇 暗

テヘラン 五月一日後發  
本省 二日前着

歐

有田外務大臣

中山公使

第八八號

往電第八六號ニ關シ

藤原長官へ大久保ヨリ

訪阿飛行ハ中山公使阿富汗大使館ニ極力交渉中ニシテ同國大使ハ相  
當好意ヲ示シ居レルモ未タ決定ニ至ラス確答ヲ得ル迄ニハ尙數日ヲ  
要スル見込ナルニ付小官及永淵ハ三日「テヘラン」發「ルフトハン  
ザ」機ニテ伯林ニ赴キ用務ヲ果シタル後羅馬經由「バグダッド」ニ  
向フ豫定ナリ依テ大島、白鳥兩大使宛ニテ小官等ノ視察等ニ獨逸側

外務省

ヨリ便宜供與方取計方長官ヨリ依頼電相煩度シ

そよかぜハ「テヘラン」ニ留置キ阿國ノ許可ヲ待機セシムルコトト  
スルモ十日頃迄ニ許可ナキ場合ハ訪阿飛行ヲ斷念シ十五日「テヘラ  
ン」發「バグダッド」着十六日「バグダッド」發「バスラ」着十七  
日「バスラ」發「カラチ」着十八日「カラチ」發甲谷陀着十九日甲  
谷陀發蘭貢着二十日蘭貢發盤谷着二十四日盤谷發廣東着二十六日廣  
東發臺北着二十七日臺北發東京着ニ依リ復航ノ途ニ就ク豫定ナリ阿  
側ヨリ十日頃許可アリタル場合ハ阿富汗ニ好「オクタン」「ガソリ  
ン」無ク當地ニ於テ往復飛行所要燃料ヲ準備スルヲ要スル爲十五日  
「テヘラン」出發ハ幾分遅延ラ免レ難キニ付御含ヲ請フ（了）

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 會計 秘書官

寫送先



昭和14 一三一五九 略  
テヘラン 五月一日後發 歐  
本省 二日前着

有田外務大臣 中山公使

第八九號(至急)

航空局長官へ大久保ヨリ

總理及遞信大臣ヨリノ贈物進呈ニ關シ三十日漸ク皇帝ノ許可アリタル旨外務省ヨリ回答アリタリ但シ遞信大臣ヨリノ贈物ニ付テハ現在ノ航空行政主管タル陸軍省航空局長官宛トセラレタキ旨「イラン」側ノ希望アリ尤モ近ク主管カ遞信省ニ移サルル趣ナルニ付中山公使ニ委託シ置キ遞相ニ贈呈スルノ途モアル處小官三日當地發伯林ニ向フヘキニ付何レニ宛ツヘキヤ至急御回電アリタシ(了)

外務省

記録簿

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 會計 秘書官

寫送先



昭和14 一三一六七 暗  
カブール 五月一日後發 歐  
本省 二日前着

有田外務大臣 守屋公使

第四七號

貴電第二二號ニ關シ(そよかぜ號阿國訪問許可取付方ノ件)

往電第四五號電報後總理「シヤイワリーハン」及陸軍大臣ト二十五日、二十六日、二十九日ト會談ノ機アリそよかぜノ飛來ニ付同意ヲ得サリシヲ遺憾トスル次第ヲ繰返シテ述ヘ將來實現ヲ期シ居ル日阿航空聯絡ノ爲捨石ヲ打テ置ク次第ナル處本使ノ申出ヲ拒絕シタルニ付テハ表面ノ理由モ左リ乍ラ最近蘇側ヨリ其ノ場合飛行中止ヲ條件ニ獨阿聯絡旅客飛行中止ヲ強要シ居ル事實モアリ航空ノ事ハ當國

外務省



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 秘書官

次官 大臣

電信課長

分類

ニ於テハ簡單ニ處理致シ難キコト累次電報ニテ御承知ノ通りナリ  
 今回ノ計畫ニ付テハ當國ニ何等使命無キ隣國ヘノ使節ヲ當國ニ於テ  
 迎フルハ筋道立タストノ意嚮カ裏面ノ理由ナルコト（其ノ意見ハ總  
 理自身ノモノナルカ如シ）本官ノ外相代理ヨリ打明ケラレタル所ニ  
 シテ右ハ當國一流ノ僻ミナルモ小國ノ常トシテ無理カラヌ點モアル様思  
 料セラル又前記三皇族トノ其ノ）後ノ懇談ニ際シテハ異口同音ニ東  
 亞ノ盟主タル日本トハ結局公然握手シ共同ノ敵ニ當ル時期アルヲ信  
 ス夫レ迄ハ我等ノ敵國ヲ刺戟スルカ如キ措置ヲ避ケタシト述ヘ懇切  
 ニ本使ノ諒解ヲ求ムル所アリタリ斯ル事態ノ下ニ於テハ如何ニ御訓  
 令ハアリトスルモ重ネテ本件交渉ヲ蒸返スコトハ面白カラスト存ス  
 右ニ御了知ヲ請フ  
 「イラン」ヘ轉電セリ

外務省

昭和14 一三二二九 暗 カブール 五月二日前發  
 本省 二日夜着 歐  
 有田外務大臣 守屋公使  
 第四八號  
 本使發「テヘラン」宛電報  
 第五號  
 阿富汗ヘノ飛行ヲ永淵理事カ熱心ニ希望シ居ルコト本使ノ熟知スル  
 所ニシテ本使モ亦赴任ノ際永淵理事ヨリ篤ト御依頼ノ次第モアリ日  
 阿航空聯絡ノ實現ヲ期シ當國首腦者ニ本件ニ關シ何等カ申入ヲ爲ス  
 時機ノ到來ヲ伺ヒツツアル次第ナルニ依リ今回親善飛行計畫ニ付テ  
 ハ趣旨ニ於テ異議ナク又若シ航空會社ノ意圖ヲ早日ニ本使ニ通報シ

外務省

電 信 案	贈物一件 中山公使ト御相詫ノ上	大久保ハ航空局長官ヨリ	貴電第八九号ニ因ニ	第 六〇 號	電送第 10531 號	主管
					昭和十四年五月二日午後七時三十分發	主任
外 務 省				( 至 急 )	件 名	宛
					贈物一件	中山公使
					記録件名	發 有 田 大 臣

(日本標準規格B5)

大臣へ轉電セリ

そよかぜノ東京出發前ヨリ當國ニ交渉シタリシナランニハ或ハ同意ヲ取附ケ得タリシナラントモ考フル程ナル處時日切迫シ居ル點ヲ考慮シ短刀直入當國ノ主權者ニ懇談ヲ爲ス等本使ノ最善ト信スル措置ヲ執リタルニモ拘ラス(當國ニ於テハ外相ハ殆ト實權ナク責任ヲ取ル能ハス本使ハ勿論外國使節ニ於テモ重要案件ニ付テハ結局直接總理及陸相ノ兩名ニ懇談シ覺ヲ附クル例ナル次第篤ト御諒承アリタシ遂ニ同意ヲ得サリシハ累次拙電ノ通りナリ就テハ更ニ時日ノ切迫シタル此ノ際此ノ上猶交渉ヲ爲スモ成功覺束ナキコトハ阿富汗ノ事情ヲ知悉スル本使ノ略豫見シ得ル所ナルニ依リ今回ハ思止マリ別ニ時機ヲ見テ阿國飛行ヲ單獨ニ計畫セラルル様永淵理事へ御傳書稍成度

外務省

F-0354

0295

(分類)

電 信 案	目下極力折衝中ナルニ付独逸側	「コンドル」機が整備係ニ付今尚部糾ス	大久保ハ航空局長官ヨリ	暗	電送第 10573 號	主管	電信課長
				昭和 1 年 5 月 2 日 午後 6 時 0 分 發	主任	第二課長	
外 務 省		件名	宛				
		機空局長官ヨリ	在 フライニ 中山公使				
		記録件名	發				
		(至急)	有田大臣				

昭和十五年五月二日起算  
119

電 信 案																			
外 務 省	何レトモ事決定ナルニ付差支ナクモ 尖方希望直リ陸軍省航空局長官宛 一方可ナルヤニ認メテ (原議用紙乙)																		

F-0354

0296

寫送先

秘書官 會計 文書 儀典 人典 調事 文查 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長

分類

昭和14 一三四一六 略  
 テヘラン 五月三日後發  
 四日前着 歐  
 有田外務大臣  
 第九一號  
 中山公使  
 大久保遞信書記官、長洲航空會社總務部長三日獨逸ニ向ケ出發セリ  
 (了)

外務省

電信案

外務省

ニハ第一回支拂時期ニ関シ確定的  
 詔令ヲセ又揮注意アリシ

(原議用紙乙)

F-0354

0297

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 祕書官

大臣 次官

電信課長

分類 F.10.93

昭和14 一三六六八 暗 カイロ 五月五日午後發 歐  
 有田外務大臣 横山公使  
 第脱一號  
 本官發阿富汗宛電報  
 第一號  
 そよかぜ號「バグダッド」立寄ノ序ニ「イラン」ト埃及トノ特殊關係ニ願ミ當地ヘモ立寄ル様御勸説ノ上結果御回電ヲ請フ  
 大臣ヘ轉電セリ

記録外名 津即人航空昇降

外務省

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 祕書官

大臣 次官

電信課長

分類

昭和14 一三五二八 暗 テヘラン 五月四日前發 歐  
 有田外務大臣 中山公使  
 第九二號  
 往電第七四號ニ關シ  
 藤原長官ヘ大久保ヨリ  
 二日中山公使ト共ニ總理ヲ往訪平沼總理ヨリノ贈物ヲ贈呈、遞信大臣贈物ハ別途航空局長官ニ贈呈シタリ  
 訪阿飛行ニ付テハ二日阿國大使ヨリ本國政府ノ意嚮ヲ變更シ得サリ  
 シ旨回答アリタルニ依リそよかぜハ最少限度ノ期間當地ニ止メ冒頭  
 往電ノ通り實行スヘシ

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 會社 秘書官

寫送先

分類 F.1.10.0.3

昭和14 一三八二二 略

カブール 五月六日後發 七日前着 三八 歐

有田外務大臣

守屋公使

第五〇號

本使發埃宛電報

第一號

貴電第一號ニ關シ(そよかせ號埃及立寄ノ件)

本件ハ「テヘラン」へ御交渉相成度シ

大臣へ轉電セリ

記録件名

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 會社 秘書官

寫送先

分類

昭和14 一三八四七 暗

テヘラン 五月六日後發 七日前着

歐

有田外務大臣

中山公使

第九四號

本使發阿富汗宛電報

第六號

往電第五號ニ關シ

鶴岡ハ出發前ニ受ケタル命令ニ依リ事務打合ノ爲松井ハ航空路調査ノ爲「ルフトハンサ」ニテ七日貴地着九日貴地發ノ豫定ニテ貴地ニ出張スヘキニ付宿舍留保方取計煩度ク尙在當地阿富汗大使館ニ於テ兩名ノ往復査證取付濟爲念大臣へ轉電セリ

外務省

電 信 案																					結果 回復 あり た し
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------------------------

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案	貴 電 第七一 号二 回	上 下 川 世 田 八 俣 路 十 九 日 貴 地 着 一 返 ノ	第 一 四 號	件 名 宛 在 在 南 支 那 支 隊 新 多 野 支 隊	件 名 宛 發 在 日 大 陸	電送第 11147 號 昭和 1年 5月 8日 午後 9時 0分	主管 電信課長 主任 第一課長	發電係	昭 和 一 年 五 月 八 日 起 發
-------------	--------------------------	---	------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------	-----	--

(日本標準規格B5)

8 17

大臣 次官 電信課長  
 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 儀典 文書 會計 會社 秘書 官  
 分類 寫送先

昭和14 一四〇〇六 暗  
 有田外務大臣  
 第八五號  
 貴電第一四號ニ關シ(そよかぜ蘭貢着陸許可取付ノ件)  
 本件着陸許可ハ既ニ五月二日取付済ニテ即時「イラン」ヘ電報済ニ  
 付右ニ御承知アリタシ(了)

蘭貢 五月九日前發  
 本省 九日後着  
 久我領事 歐

記録件名

主管 電信課長 主任 第二課長 昭和十五年五月九日	電送第 11249 號	暗	昭和14年5月9日午後9時0分發
	件名	宛	發
第 四 號	在 横山分使	有田大臣	
記録件名			

電信課長 加藤 電係  
 外務省

量官等「ア」カ「エ」迄宛電報第一号ニ関シ  
 在 横山分使  
 有田大臣

(日本標準規格 B5)

F-0354

0301



電 信 案	(分類)	本大臣 芥横山公使 泉電報 第四号	電送第 11250 號	主管	電信課長	主任	第一課長	昭和十四年 五月 九日	時 分 發	9 0	9 69	外 務 省
			件 名	宛					發 件 名			
		(右名電ノコト)	第六	在 神戶 午後								
			記録件名	發 件 名								

左様 締 請 承 担 承 度  
アガカキ本連 (ハ) 務 電 〇 〇

(原議用紙乙)

F-0354

0302

外務省

第二課長

情 14.5.13 廣

上よのセ子重員。撮影活動写真ニ関スル

昭和十四年五月十日附在東京ニシテ國代理公使末路第一三四一八号

仮譯

(政一)

第二課長

「イラン」國公使「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ

要水ハ根據地「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ

情報部

情報部

此書寫紙上致候所者。在「イラン」本國

政府ヨリ先般「イラン」國皇太子殿下御成婚

奉祝参加ノ爲ニ上ヨセ子重員ニ依リ「イラン」

赴ケラルル帝國政府代表團中ノ或人ノ

撮影「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ

外務省

「イラン」國公使「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ  
「イラン」國公使「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ  
「イラン」國公使「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ  
「イラン」國公使「イラン」特派員「イラン」特派員ニ付テ

本國政府ハ右訓令中一訂テ活動写真「イラン」

撮影ヲ担当セル「イラン」國特派員ニ付テ

技術的理由ニ基テ右「イラン」國特派員ニ付テ

「イラン」國特派員「イラン」國特派員ニ付テ

「イラン」國特派員「イラン」國特派員ニ付テ

「イラン」國特派員「イラン」國特派員ニ付テ

外務省

ニシテ日本ニ到着ノ場合右ノイルム<sup>ウ</sup>包含  
 され筒封<sup>リ</sup>筒封スルコトナク直ニ在寧  
 ノラニ國公使館ニ<sup>送</sup>附<sup>ル</sup>本官立合  
 封<sup>ニ</sup>封<sup>シ</sup>得<sup>ル</sup>入<sup>ル</sup>其後本官ヨリ在ノイルム  
 一紙之更ニ技術的<sup>手配</sup>操作<sup>換</sup>者<sup>付</sup>本<sup>換</sup>國<sup>付</sup>政府  
 宛送附スル<sup>郵便</sup>便<sup>依</sup>而<sup>本</sup>官<sup>ハ</sup>  
 閣下<sup>ヨリ</sup>上<sup>記</sup>事項<sup>関</sup>係<sup>方</sup>面<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>テ<sup>直</sup>接<sup>書</sup>  
 下<sup>ル</sup>略<sup>前</sup>通<sup>告</sup>奉<sup>出</sup>ス<sup>ル</sup>様<sup>宜</sup>請<sup>致</sup>候<sup>儀</sup>

外務省

左申<sup>至</sup>近<sup>多</sup>奉<sup>出</sup>ス<sup>ル</sup>内<sup>下</sup>ニ<sup>向</sup>テ<sup>指</sup>意<sup>ヲ</sup>表<sup>ス</sup>候<sup>儀</sup>

外務省



LÉGATION IMPÉRIALE  
DE L'IRAN

報部  
第二課長

No. 124/18.

Tokyo, May 10th, 1939.

取  
付  
印

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency that I am in receipt of an instruction from the Home Authorities at Teheran notifying me in regard to cinematograph films taken in Iran by some members of the delegation of the Imperial Japanese Government and its party who went to Iran aboard the aeroplane "Soyokaze" to participate in the wedding celebration of H. H. the Crown Prince of Iran.

In the instruction given, the Home Authorities inform me that, for some technical reasons, the police authorities in Iran in charge of censorship of cinematograph films placed the above-said films in an envelope and sealed it so that it may not be opened in transit from Iran to Japan. They instruct me that, when the films will arrive in Japan, the envelope containing them should, without being opened, be immediately brought to the Imperial Iranian Legation in Tokyo, where it may be opened in my presence and I shall arrange for further technical process to be taken on them and then sending them to the Home Authorities for their censorship. I, therefore, have to request Your Excellency that You will be good enough to issue due previous notifications to the parties concerned in the matter described above.

I avail myself of this opportunity to renew to Your excellency, Monsieur le Ministre, the assurance of my high consideration.

*M. Rafandi*  
Iranian Chargé d'Affaires.

His Excellency  
Mr. Hachiro Ariga,  
H.I.J.M.'s Minister for Foreign Affairs.

第一課長  
印

高

昭和十四年五月十日  
日接

F-0354

0305

寫送先

分類

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



有田外務大臣

第九八號

往電第八八號ニ關シ

そよかぜ復航豫定在通過地公館ニ御通知相成度シ尙蘭貢側着陸許可  
ハ取付濟ノ趣ナリ  
伊へ轉電セリ

昭和14 一四三三六 暗

テヘラン 五月十一日 後發  
本 省 十一日 夜着

歐

中山公使

外務省

寫送先

分類

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



有田外務大臣

第九七號

往電第八六號ニ關シ

鶴岡ハ十日歸着シタル處大久保カ歐洲旅行ヨリ當地ニ歸ラサルヤモ  
測リ難キニ付「イラン」側ヘノ關係モアリ十五日發ノそよかぜニ  
「バクダツド」迄乗込ミ江口、大久保、永淵ハ同地ニテそよかぜニ  
乗込ム筈  
伊へ轉電セリ

昭和14 一四三三四 暗

テヘラン 五月十一日 後發  
本 省 十一日 夜着

歐

中山公使

外務省

(分類)

電 信 案	十六日 「バグダッド」 「バスラ」	五月十五日 「バグダッド」	之より申復航線是左ノ通	電送第 30 11732 號	主管 局長
				昭和十四年五月十三日	電信課長
外 務 省	合第九九九號	件名 之より申復航線	宛 台北 廣東 暹羅	千葉外事部長 岡崎総領事 杉井公使	局長 五

昭和十四年五月十三日  
13 6

(日本標準規格B5)

(分類)

電 信 案	電送第 11714 號	昭和十四年五月十三日	主任 局長	暗 第 六 六 號	主管 局長
				電信課長	
外 務 省	中山公使	之より申復航線	在「イラシ」	千葉外事部長 岡崎総領事 杉井公使	局長 五

昭和十四年五月十三日  
13 8

(日本標準規格B5)

F-0354

0307



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 儀典 人事 調查 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

分類 F.1.10.0.3

昭和14 一五一三三 平 蘭貢 五月十八日後發 歐、儀  
 本省 十九日前着

有田外務大臣 久我領事

藤原長官へ大久保ヨリ

十八日午前七時甲谷陀發蘭貢ニ向ヒタル處「サンドウエイ」附近ニ  
 テ猛烈ナル雷雨ニ遭遇シタル爲一旦「アキヤブ」ニ引返シ來ルモ午  
 後一時半蘭貢ニ向フヘク決意シ「モンズーン」ト雷雨ノ中ヲ突破午  
 後三時半蘭貢在留邦人ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ無事着陸セリ明朝八時  
 盤谷ニ向フ(了)

外務省

記録件本邦人航空関係事件

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 儀典 人事 調查 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和14 一四七三三 略 テヘラン 五月十五日後發 歐、儀  
 本省 十五日夜着

有田外務大臣 中山公使

第一〇二號

そよかぜ號十五日午前九時「バグダッド」經由歸國ノ途ニ就ケリ  
 甲谷陀、蘭貢へ轉電セリ

外務省

F-0354

0309



F-0354

0310

②  
 LÉGATION DU JAPON  
 TÉHÉRAN (IRAN)  
 昭和十四年五月十三日  
 安西博士長殿  
 御奮闘のこゝろからお祝ひ申す可  
 年陸軍陣亡者追善の益多事休折柄愈  
 切望の如致前は数一切なら行程押控待  
 望り誠に難有うごさいませる物也に  
 奉せし後き近由迄お返し候に  
 大に感謝致して居りました處もか  
 の承止に同じは色々生自身の上  
 付いて御多忙中深慮せられたらと伺  
 全々感激致した次第でございます

②  
 一、我が国は、航空外交の効果を  
 ともたせば、無事にライオンに、二、五日の  
 空中行列は、外国機としては最も優れ、地位  
 に、つらば、皇室皇太子、祝賀する觀立式  
 場（シナキ競馬場）上空を見事に飛行し、  
 全体、機械收造の目的は達成せられたものと  
 思います。  
 陸軍大臣ナヒュクシ、航空局長長谷川ハニ  
 姫の、ライオン飛行機校長其他飛行機副  
 の、ライオン日本の航空界に、驚き、関心を持った  
 のは、確實な事案です。  
 入觀客の前日には、皇太子御成婚の奉祝  
 じ、とも、一枚空中から、まいたり、その前、  
 に、試験飛行と稱し、ライオン上空を

③  
 飛機せり、或は、十九日には、飛行場格納庫内  
 に、オーストリア式の、機をも、じ、たり、て、大いに  
 宣傳せ、た、結果、でも、あり、ませ、ん、か、ライオン國民、般の  
 我國、に、對する、認識、に、相當、著しい、変化、がある、様と  
 在、留、邦人、が、確言、して、たり、ます、橋、本、庫、内、の  
 さん、が、こゝ、には、航空局長、長谷川、飛行機校長  
 等、が、出席、し、熱心、に、その、功、也、の、性能、に、い、て、讚  
 詞、を、述べ、た、飛行機、用、格、を、一字、も、知ら、な、い、生  
 徒、も、仰、付、か、つ、て、大、分、固、却、し、た、ら、か、意味  
 地、は、通、じ、た、と、思、い、ます。  
 以上、稍、我、國、引、水、の、嫌、は、あり、ます、が、どう、か、せ、り  
 訪、入、飛行機、は、對、し、ライオン、關係、の、見、地、から、成功、した  
 こと、も、い、て、申、上、げ、る、處、に、敢、て、御、報告、し  
 部長、に、お、祝、い、を、申、上、げ、る、處、で、ござ、います  
 中山、公、使、高、品、武、蔵、以下、當地、の、官、民、は

④ 陛下の御事案を認め承んじしは、  
 二、この世の内部關係  
 外務省の之は対外的に於て飛行は大成の  
 ち、是れ断言し得るが對内的に即ち大衆の  
 及に三氏に對しては安否得長からず未だ獲得  
 に由り力を厭はねばならぬに其がこゝです

(a) 勳章問題  
 (1) 此は女佐に女佐は近々瑞田の旭四の皇  
 たることになり居るが、瑞田の國イニから、  
 以下ものは最(高)と力流して居ました、  
 中山公使の御努力に由りは、(イ)側  
 は内規として女佐の大佐に於る階級のものは  
 四等と出するに決定して居り、此の懸念を變更  
 するに由り未だに確信して未だ一考したる  
 現に印艦隊のモトに(女佐と女佐の間)

⑤  
 LÉGATION DU JAPON  
 TÉHÉRAN  
 (IRAN)  
 Seal of Akhbari  
 にも四等と出た、  
 (イ)側と文書による交渉がなされた、  
 成功せず、又波蘭の大統領侍従の呈請  
 後にも信官の故を以て四等と出し、波蘭側  
 大統領侍従の特別の地位にあることと理由  
 と、  
 一、この事案があり、  
 對する(イ)側の措置は、(イ)側とは別に  
 理屈のない処置ではないです、但し、  
 あたりなり、  
 外國の公使さんの御機嫌を取る所ですが、  
 氣分が極端に下を思はした生氣を感ずる

① 直轄の権威を以て、文内面筋は、  
 油城博向に、及びたる、  
 御陳空式、  
 残問題は、  
 字國内、  
 公する、  
 ます、  
 として、  
 中、  
 古、  
 女、  
 合、  
 全、

② 確、  
 方、  
 空、  
 受、  
 前、  
 待、  
 後、  
 何、  
 大、  
 加、  
 遠、  
 途、  
 有、

⑧ 此長頃感激して居ります。

大久保、永瀬両氏は、にに女佐、佐橋四等、  
 松井機械長には、昔の労働、他の四等、未給員に  
 上等労働車を、出さるに、たつて居る、百光日儀  
 典局長が、公使館に、未給、中山公使に、留、留、留  
 する所、か、念、郵、郵、の、現、物、を、出、す、前、に、二、一、一、旅  
 行、に、出、か、つ、て、ま、わ、ら、な、い、郵、車、が、未、給、の、外  
 へ、中、山、公、使、の、交、渉、の、結、果、旅、行、先、の、二、一、一、に、外  
 船、荷、の、報、知、を、出、し、て、致、し、た、か、ら、或、は、明、後  
 の、出、發、に、休、に、念、ふ、に、思、ひ、ま、す、か、ま、さ、な、い、な  
 の、右、の、者、以、て、郵、車、が、一、日、停、止、す、る、に、由、り、ま、す  
 何、れ、に、せ、も、中、山、公、使、の、湖、湖、力、は、事、実、に、あ、り、二、一、一  
 が、旅、行、中、で、あ、る、途、中、に、一、日、一、日、を、要、す、る、郵、車、と、し、て  
 郵、車、の、出、る、後、に、も、上、を、得、な、い、に、す

LÉGATION DU JAPON  
 TÉHERAN  
 (IRAN)

⑨ 郵車の間、信件が、た、場、合、は、大、久、保、氏、か、ら、  
 表、信、有、に、出、さ、る、に、由、り、一、日、一、日、を、要、し、上、げ、ま、す  
 (6) (イ) 側、の、と、り、に、對、し、て、是、に、對、し、る、取、扱  
 (ハ) 大、久、保、課、長  
 (イ) 其、他、の、扱、待、は、に、は、永、瀬、及、土、生、皆、各、各、に、取、扱  
 (ロ) 此、三、日、の、間、の、二、五、日、迄、毎、日、毎、晚  
 我、の、行、を、世、に、た、わ、り、ま、す、が、二、一、一、に、毎、日、の、際、  
 隨、便、に、報、知、し、た、ら、は、は、致、す、な、い、に、思、ひ、ま、す  
 「聊、か、不、滿、の、態、に、一、日、一、日、の、報、知、を、飛、行、  
 主、權、有、る、常、國、政、府、代、表、(有、る、肩、書、を、以、て、  
 候、意、意、氣、軒、即、ち、演、説、も、上、手、に、な、さ、し、な、か、つ、た  
 の、で、ま、か、感、激、家、と、あ、る、な、か、い、し、果、を、解、し、て、く、れ  
 大、久、保、が、誠、を、あ、り、ま、す

F-0354

0314



② あつた。その世子を出すに、この作は、太子 侯  
 永岡氏等の努力を蒙ることは出来た。成り、不  
 今後、外交に飛行機を利用する場合も多々あり  
 ませう。その際は此の人達の助力を蒙るべきであ  
 り。彼等事を迅速に運ぶに、思ひ、此人達を身  
 外務省の人と、たと念願致し、その故に、我々  
 外務省関係の場合、大体上級官事案に於て、機  
 運長らも御説明あり、本飛行の成功を望ま  
 出来、高長主権の身を備へて、三氏並  
 に、太子を名をも併せ、招待して、受けるべき  
 卒甚と存じます

以後各高級官はよく協力され、味に公使には  
 相手が多忙な故に、たに、拘はら、未機を提へ、  
 以前の機に對する、（一）側、注意を喚起  
 されたことは、生じて、全く、感謝致して、在る次第  
 です

③ 抑日本に対する関心の甚く、他に打つべき牛が、か  
 故に、その、せを出した。である。、その、せは、（一）  
 せん、日本に、興味を、持にせ、日本の、進歩、一た、科學を  
 事業に、（一）認識せしめ、支那、事業、中に、まか、は  
 う、その、長途、飛行、機を、派する、余裕、ある、を  
 知し、ゆに、その、目的、は、貴族、一に、見る、べき、と思  
 確信、一ま、才なる、清長、に、（一）は、元公、成り、一た、断  
 言、一も、いと思ひます、対、外交、の、いは、権、及、乃、至  
 正當である、（一）せ、か盟、邦者、國の、受ける、特  
 待遇、（一）を、得たい、（一）と、懐疑、（一）する、が、無理、（一）  
 あります

(4) 航空、機、具、（一）  
 此の、世に、飛來、前、大體、他は、まり、かけ、（一）、在、此、機、（一）  
 處、御禮、（一）、多忙、中、に、も、いは、さ、古は、（一）、屬、在、機、（一）

LÉGATION DU JAPON  
 TÉHÉRAN  
 (IRAN)

南の方へ付いては皇國外務省の「返報」が  
 ばかりに拘るが、この旅行の之亦決定  
 には本心より之をかせたが、出資に本間に合意は  
 ないと思ふ  
 長と短の二つを書き並べて思ひつゝ、一生母  
 他三人も別に喧嘩などは一たはなりのついで  
 御安心下さい。智恵が心臓の諸人、諸人と教へ  
 され、大に有益だつと思ひます

⑭  
 此の飛行機乗入は、長の國の賜物  
 由、日本も奉が、交通に運送は、かゝつて  
 加減で引起すは、なほ、存じます  
 かく、守屋の使女、敏國の勲を得、子  
 二回、法、表、一、色、と、考、に、有、る、に、多、か、つ  
 と思ひます。土地を、見、に、二、回、の、教、へ、つ、た、に、せ  
 明後、五、日、午、前、九、時、に、去、り、て、二、日、分、に、張、り  
 由、大、久、保、永、備、西、氏、の、政、州、行、の、日、時、の、女  
 此当地は、歸、り、す、に、然、ら、し、た、ら、し、て、来、り  
 機定で、去、り、は、十、日、に、歸、着、した、り、て、二、日、分、に、は



⑧  
自動車にバタンに同か(マ)にたか(マ)の  
表の体裁を略(マ)十五日迄待期するに  
致(マ)た(マ)か(マ)の定期は九日に登(マ)り(マ)度(マ)天(マ)候  
の(マ)候(マ)日(マ)也(マ)十(マ)日(マ)に(マ)登(マ)り(マ)度(マ)十(マ)日(マ)も(マ)也(マ)り  
を(マ)出(マ)発(マ)の(マ)日(マ)は(マ)四(マ)十(マ)日(マ)の(マ)真(マ)空(マ)飛(マ)行(マ)機(マ)に  
つ(マ)り(マ)飛(マ)行(マ)機(マ)の(マ)事(マ)に(マ)も(マ)あ(マ)り(マ)此(マ)の(マ)三(マ)日(マ)は(マ)休(マ)息(マ)に  
使(マ)せ(マ)て(マ)後(マ)に(マ)機(マ)を(マ)次(マ)に(マ)飛(マ)行(マ)機(マ)に(マ)使(マ)用(マ)し(マ)て(マ)行(マ)く(マ)事(マ)に(マ)願(マ)い(マ)ま(マ)す  
尚(マ)か(マ)ら(マ)な(マ)い(マ)と(マ)も(マ)地(マ)方(マ)の(マ)飛(マ)行(マ)機(マ)は(マ)一(マ)十(マ)七(マ)日(マ)を(マ)新(マ)路  
一(マ)時(マ)間(マ)の(マ)旅(マ)行(マ)機(マ)の(マ)時(マ)間(マ)を(マ)一(マ)時(マ)間(マ)に(マ)縮(マ)小(マ)し(マ)て(マ)一(マ)時(マ)間(マ)に(マ)て(マ)ら(マ)れ(マ)る(マ)事(マ)に(マ)願(マ)い(マ)ま(マ)す  
に(マ)着(マ)き(マ)ます(マ)途(マ)中(マ)物(マ)姿(マ)の(マ)沙(マ)漠(マ)と(マ)高(マ)山(マ)嶽(マ)地(マ)帯(マ)に  
出(マ)立(マ)の(マ)飛(マ)行(マ)機(マ)に(マ)は(マ)り(マ)ま(マ)す  
敬(マ)意(マ)の(マ)旅(マ)程(マ)に(マ)從(マ)ひ(マ)て(マ)は(マ)歸(マ)来(マ)を(マ)致(マ)す(マ)事(マ)に(マ)願(マ)い(マ)ま(マ)す  
井(マ)上(マ)副(マ)長(マ)久(マ)保(マ)田(マ)専(マ)務(マ)官(マ)如(マ)此(マ)に(マ)願(マ)い(マ)ま(マ)す  
敬(マ)意(マ)の(マ)旅(マ)程(マ)に(マ)願(マ)い(マ)ま(マ)す

第二課

情報部

分類 F.10.0.3

歐亞局

第一六七號

昭和十四年五月二十一日

拂付 昭和十四年六月廿三日接獲

第一課

別紙添附

外務大臣有田八郎殿

在蘭貢

領事 久我成



情 14.7.3. 成

「えよか」號ニ關スル新聞記事送附ノ件  
イラン國ヨリ倭國ノ途ニアル「えよか」號ハ五月十八日在蘭  
邦人ノ熱誠ナル歡迎ニ當地「ミンガラドン」飛行場ニ着陸シ  
去夜一泊シ翌五月十九日朝無事盤谷ニ向ケ去ルセリ  
今購入当地滞在中心地英文及緬甸文新聞紙ニ現ハレタ  
ル新聞記事何等ヲ參考道ニ茲新送附ス御査  
収相成度ニ

在蘭貢日本領事館

尚本信附屬者ハ一括在「えよか」公使館宛送付シ遞後者	大久保書記官ハ転交方依頼済ニ付御會相成度在中	添フ
---------------------------	------------------------	----

在蘭貢日本領事館

"T H E S U N" - 19th MAY 1939.

ရတနာတောင်မြို့မှ ရွှေဘိုသို့



၂-ပ စတုရံကလေးပေါ်၌ ရွှေဘိုသို့ ရောက် လာသော ရွှေဘိုမှ ရတနာတောင်မြို့

ARRIVAL OF "SOYOKAZE" AT THE MINGALADON AERODROME.



ဝက်ဘက်ဂျူးယာဝန်ကလေးပေါ်၌ ရတနာတောင်မြို့မှ ရွှေဘိုသို့ ရောက် လာသော ရွှေဘိုမှ ရတနာတောင်မြို့

MEMBERS OF "SOYOKAZE" AND MR. KUGA, THE JAPANESE CONSUL.

F-0354

0320

The Sun - 19th May 1959.

ARRIVAL OF JAPANESE PLANE,

"SOYOKAZU"

The Mingaladon aerodrome was, yesterday, crowded with members of the Japanese community including school children carrying Japanese national flags who were eagerly and merrily awaiting for the arrival of Japanese plane, "SOYOKAZU" on her return flight from Iran. The Japanese Consul and U Mannng Gyee, the President of the Senate also present at the air port to welcome the plane.

The plane was scheduled to arrive at Mingaladon aerodrome by 12 noon but owing to unfavourable weather conditions it was compelled to land at Akyab and after two hours' stop there the plane proceeded to Rangoon arriving at 3.25 p.m. The plane was piloted by Mr. Matsui with three crew and three passengers, Mr. Okubo, Mr. Nakabushi and Mr. Iguchi.

All the crew and passengers were garlanded by the young daughters of the Manager of the Tokohama Specie Bank and Mr. Murakami. The Japanese Consul introduced the members of the plane to U Mannng Gyee, the President of the Senate who warmly welcomed the visitors. The plane would leave this morning at 8 for Bangkok.

The members of "SOYOKAZU" were entertained at the Japanese Association.

The Rangoon Japanese Association entertained the air men and party at the premises of the Association yesterday evening at 8, which was largely attended by the prominent members of the Japanese community of Rangoon. Mr. Hayakawa, the President of the Association gave a welcoming speech to the visitors and Mr. Kuga, the Japanese Consul in paying his tribute said that he was very glad indeed to mention the three achievements performed by the Japanese nation in this time of crisis.

- (1) The use of Japanese made plane.
- (2) Notwithstanding the aerial emergency at present a plane could be spared to send to foreign soil.
- (3) No shortcoming in the matter of International relations.

The function came to end at 10 p.m. after calling "Banzai" three times in cheers.

The "New Light of Burma" 19-5-39.



ရန်ကုန်သို့ရောက်လာသော ဂျပန်အမျိုးဂုဏ်ရှိလှစွာ ဖွဲ့စည်းထားသော အစိုးရအဖွဲ့နှင့် အထက်  
ဖွဲ့စည်းထားသော အစိုးရအဖွဲ့အား ဂျပန်ရန်ကုန်မြို့က ကောင်စစ်ဝန်က ပြီးဆက်ပေးနေပုံ။

The Hon'ble U Maung Gye, President of  
the Burma Senate, introduced to Mr. T. Okubo  
by the Japanese Consul at Rangoon.



ဂျပန်လေထွက် နှင့် ပါလာသော ဝဂ္ဂိုလ်များကို ဂျပန်အမျိုးသမီးများက ဖန်းကုံးပွင့်နေပုံ။

The Occupants of the "Soyokaze" garlanded  
by two charming Japanese girls at Rangoon.

F-0354

0322

- 2 -  
like to say that Japan is manufacturing many aeroplanes which are  
of much better quality than this one."

In his reply Mr. Okubo expressed his thanks for the hearty  
welcome, accorded to him and his party.

F-0354

0323

The "New Light of Burma"  
Dated May 1933, 1939.

JAPANESE PLANE WELCOMED BY A LARGE CROWD.  
REPRESENTATIONS OF THE JAPANESE GOVERNMENT AS PASSENGERS.

HEAVY RAIN AND STRONG WIND ON THE WAY.

A Japanese plane which was at first expected at 11 a.m., landed at Mingaladon at 3.15 p.m. yesterday. The "SOYOKAZE" flew back from Iran and arrived at Calcutta on Wednesday. From there it started for Rangoon at 7.45 a.m. yesterday, but was obliged by weather to land at Akyab at half past 11. As there was a heavy rain and strong wind over the Arakan Yoma, the plane could leave Akyab only at 1 p.m., arriving here shortly after 3.

There was a great crowd at Mingaladon to welcome the plane. Among those present were the Hon'ble U Maung Gye and family and Japanese residents of Rangoon including doctors and young students who carry in their hands small Japanese national flags.

The "SOYOKAZE" was piloted by Mr. K. Matsui who had with him as crew Messrs. S. Iwamoto, T. Okamoto, S. Kiyozu and K. Kusumoto. Three passengers were carried, Messrs. T. Okubo, S. Iguchi and T. Nagabulhi who attended as the representatives of the Japanese Government the marriage of the Crown Prince of Iran to the Royal Princess of Egypt.

The occupants of the plane were garlanded by two Japanese girls who were dressed in their national costume. The Japanese Consul introduced U Maung Gye and other local Japanese gentlemen to them.

Commander Mitsui was good enough to give us photos of the marriage ceremony at Iran. Mr. T. Okubo told us that they came across a very bad weather on the way, but as they knew that many people were waiting at Rangoon, they tried their best to arrive here.

The Plane leaves Rangoon today at about 8 a.m.

A reception party was held at the Japanese Association at the corner of the 49th and Merchant Streets at about 7 p.m. yesterday, in honour of the Japanese gentlemen who arrived by the "SOYOKAZE". Mr. R. Hayakawa, the President of the Association was at the head of the table. After the President had made welcome speech, the Japanese Consul, Mr. S. Kuge, rose up and said: "The Japanese Government has sent its representatives for the first time by an aeroplane to Iran, which is the second largest Mahomedan country in the world. Japan is manufacturing aeroplanes and this plane is purely a Japanese-made. In spite of the fact that Japanese planes are busily engaged in the China incident, Japan has many spare planes in her aerial force. The arrival of the "SOYOKAZE" is an evident proof for the above statement. Nevertheless the plane which is now in Rangoon is only a fifth class quality and I would

the Rangoon Gazette - 19<sup>th</sup> May 1939.

### THE "SOYOKAZE" ARRIVES IN RANGOON

#### PLANE WELCOMED BY JAPANESE RESIDENTS

The Soyokaze (Good Wind), the Japanese plane belonging to the Japan Air Transport Corporation, Tokio, which flew to Iran to express the Japanese nation's felicitations on the marriage of the Crown Prince of Iran to the Royal Princess of Egypt, landed at Rangoon from Calcutta yesterday evening shortly before 4. The plane was at first expected at 11 a.m. and at that hour a number of Japanese, many of them school-children, had gathered at the airport, most of them carrying small Japanese national flags and a good number bigger ones.

After some time when no news had been received of the machine, the crowd gathered on the tarmac outside the hangar gazing anxiously north-westward. Some one eventually spotted a speck in the sky and, when eventually this took the shape of an aeroplane, the crowd began waving their flags in welcome. The machine, however, turned out to be the East-bound Imperial Airways flying-boat, which flew on towards the Rangoon River.

Still later a wireless message was received that the Soyokaze had landed at Aktyab and was not continuing towards Rangoon until weather conditions improved. Some of those who were there to welcome the plane left the aerodrome, but a good many remained. The crowd swelled again when information was received that the plane was due at about 4 p.m. When it landed it received a warm welcome and its occupants were garlanded immediately they left the machine.

The Soyokaze was piloted by Mr. K. Matsui, who had with him as crew Messrs. S. Twomoto, T. Akamoto, S. Kyohe and K. Kusumato. Three passengers were carried, Messrs. T. Okubo, S. Isumoky and T. Nagabuchi. The passengers said that they had a pleasant trip to Iran and were accorded every hospitality there.

On its outward trip, the plane carried a cherry tree for the wedding celebrations at Teheran and presents from the Emperor of Japan. The Japanese War Minister also sent by the plane swords for the Chief of the War Ministry of Iran.

The Soyokaze will take off this morning at 8 for Bangkok.

(Photograph on page 43)

THE RANGOON GAZETTE, FRIDAY, MAY 19, 1939.



At the aerodrome yesterday to greet the Japanese plane "Soyokaze" were these two charming Japanese girls, dressed in their national costume. Crowds of Japanese waited at the aerodrome from 11 a.m. when the plane was expected, until 4 p.m. when it eventually arrived.

F-0354

0325



*The Rangoon Daily News - 19<sup>th</sup> May 29*

**"SOYOKAZE" IN  
RANGOON**

**ON RETURN FLIGHT FROM  
IRAN**

The Japanese aeroplane "Soyokaze" (Good Wind) which is on her way back to Japan after attending the marriage of the Crown Prince of Iran arrived at the Mingaladon Aerodrome on Thursday at 3-25 p.m.

The plane which left Calcutta at 7-30 in the morning had to land at Akyab at 11-30 a.m. owing to bad weather. After halting there for about 2 hours the plane took off for Rangoon. As it encountered rain storm over the Yomahs, the pilot had to follow the coastal route reaching Rangoon at 3-25 p.m. The plane carried five crew and three passengers. The Japanese Consul and other members of Japanese community including some school children welcomed the guests who will be leaving Rangoon this morning (Friday) at 8 a.m. for Bangkok en route to Tokyo. U Maung Gyee was also present at the Aerodrome.

In the evening the guests were entertained by the Japanese Association in 49th Street, Rangoon.

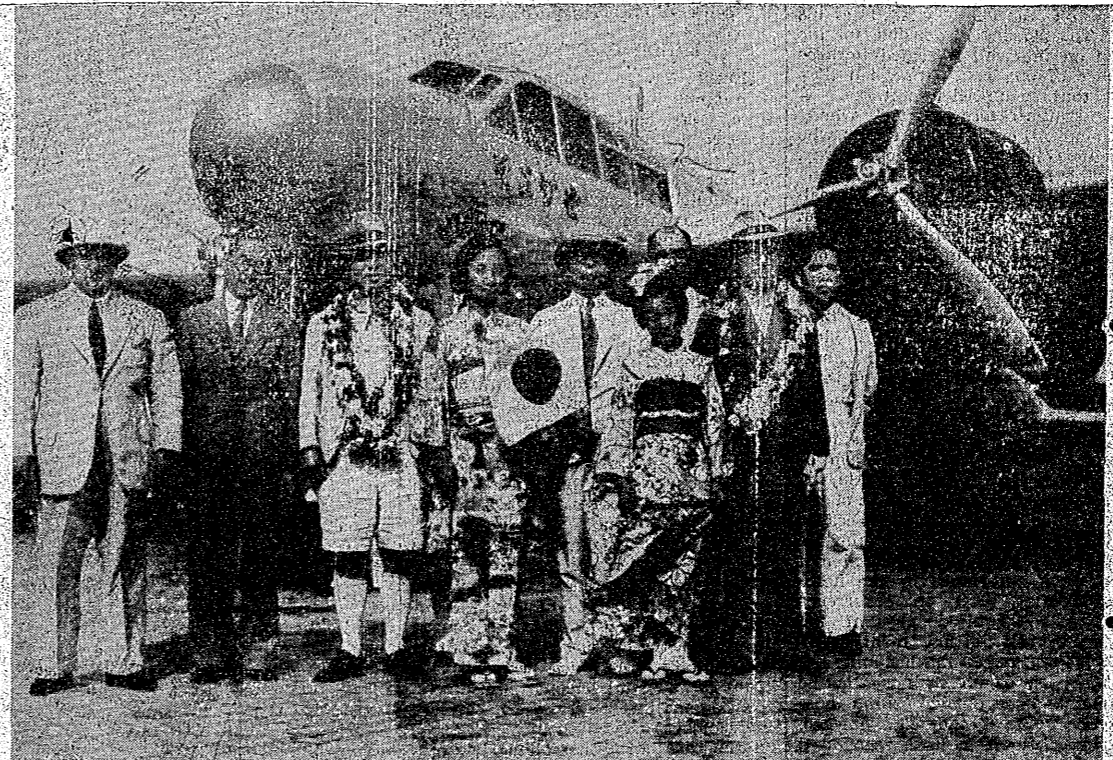
*The New Burma - 19<sup>th</sup> May 1929.*

**Soyokaze**

The Soyokaze (Good Wind) the Japanese plane which flew to Teheran on a goodwill mission carrying presents for the Prince of Iran on his marriage occasion, has started its return flight leaving Teheran on May 15. The plane is expected here on May 19 and will stop here for the night, resuming its eastward journey on the following morning.

The Soyokaze the Japanese plane which flew on a goodwill mission to Teheran left Calcutta on Thursday morning and is expected at Rangoon about 11 a.m. The plane which carries four crew and three passengers will spend the night in Rangoon and proceed on Friday on her flight back to Tokyo.

THE RANGOON GAZETTE, SATURDAY, MAY 20, 1939



The "Soyokaze" at Rangoon. The machine flew from Tokio to Teheran to express the Japanese nation's felicitations on the marriage of the Crown Prince of Iran to the Royal Princess of Egypt. It landed at Rangoon on its way home on Thursday evening. Below are the passengers and crew of the machine with some of those who were at the aerodrome to meet them. The "Soyokaze" left yesterday morning for Bangkok.

THE "SOYOKAZE"

The Soyokaze (Good Wind), the Japanese plane belonging to the Japan Air Transport Corporation, Tokio, which flew to Iran to express the Japanese nation's felicitations on the marriage of the Crown Prince of Iran to the Royal Princess of Egypt, and which landed at Rangoon on Thursday evening on the return flight, left yesterday morning for Bangkok.

Rangoon Times, May 19, 1939.

## JAPANESE GOODWILL PLANE

### "SOYOKAZE" PASSES THROUGH CITY ON RETURN JOURNEY

On the occasion of the marriage of the Crown Prince of Iran with the Royal Princess of Egypt, the Japanese sent a delegation to Iran with a cherry tree and other presents from the Emperor to express the nation's felicitations, the delegation travelling by the Soyokaze (Good Wind) plane belonging to the Japan Air Transport Corporation of Tokyo. The Soyokaze arrived in Rangoon at about 4 p.m. on Thursday from Calcutta (via Akyab) and was met by a good gathering of the Japanese residents of the city and many of their Burmese friends. Had the plane arrived in the forenoon as expected the crowd would have been bigger for the majority of the Japanese children had returned home on learning that the Soyokaze was held up at Akyab by bad weather.

The Soyokaze carried a crew of five (with Mr. K. Matsui as the pilot) and three passengers—all Japanese. They were the guests of the Japanese Consul on Thursday night when a dinner was held in their honour by Mr. Seibi Kuga (the Consul).

The Soyokaze continued its homeward journey on Friday morning when she took off for Bangkok.

公 信 案

外 務 省

即予配相煩度

本信送付先、海軍省、航空局、大日本航空会社

(別添付原物假設其各一部是其儘添付ノ事ト)

發信用		執務用	
主信	3		3
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考			

懸案

公文書課發送 昭和拾四年五月廿參日發送済

主 管 歐亞局長

主 任 第一課長

昭 和 十 四 年 五 月 十 八 日

昭 和 拾 四 年 五 月 廿 參 日 附 屬

淨書 (原稿) (淨書)

受 信 人 名

海軍省軍務局長

航空局長官

大日本航空会社社長

井上 政 亞 局 長

名 件

そよぶ號來員撮影機郵真ニ関ス件

本件ニ関シ在京門ラニ國代理公使ヨリ別添付(假那取文添付)ノ届リ申越シタルニ付、貴方ニ於テ本件改動寫真フィルムノ即入午、場合ハ兩封ニ失ヲケ、當方ハ、速ニ終了

(之カ回答振ニ際シテ、本件ニ関シ、速ニ終了)

外 務 省

文書課長

別紙

23 57

F-0354

0329

電 信 案										
外 務 省										
										二社に直接供給方至急取計ハ 夕云

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案										
外 務 省										
	電送第 12798 號 昭和十四年五月二十四日午後七時二分發		主管 電信課長 主任 發電係						昭和十四年五月二十四日起草 24 37	
	件名 氣象情報 貴地無電局ヨリ 上カセ		宛 在河内 銃兵總領事 有田大臣		第五又號 (3/3)					
	是カカセヨ廿五日午前六時發答 奔廣東ニ向テ豫定ニ付佛印地方									
	記録件名									

(日本標準規格 B5)

F-0354

0330

そよかぜ號歸還式ニ於ケル外務大臣祝辭(四一四、五、二八、初冊)  
先般我カ友邦伊蘭國ノ皇太子殿下ト埃及國ノ皇妹殿下トノ御成婚式  
カ「テヘラン」ニ於テ盛大ニ舉行セラレマスルニ當リ我國朝野ノ祝  
意ヲ表明スル爲ニ派遣セラレマシタそよかぜ號カ完全ニ其ノ使命ヲ  
達成シ本日茲ニ其ノ無事ナル歸還ヲ見マシタコトハ洵ニ慶祝ニ堪ヘ  
ナイ所テアリマス

現地カラノ報告ニ依リマスルトそよかぜ號ハ四月十五日「イラン」  
國ノ首府「テヘラン」ニ安着致シマシテカラ五月十五日歸還ノ途ニ  
就キマスル迄一ヶ月ニ亘ル滯在中其ノ優秀ナル性能ト操縦者ノ卓越  
セル技能トヲ以テ彼ノ地ノ人士ニ對シ航空日本ノ實力ニ付多大ノ感

(日本標準規格B5)

外務省

銘ヲ與ヘタ次第テアリマス殊ニ四月廿五日「テヘラン」ニ於テ舉行  
セラレマシタ空中分列式ニ於テハ參加各國トモ夫々優秀ナル飛行機  
ヲ出シタ中ニ於テ我そよかぜハ此等ノ優秀機中ニ於テモ斷然異彩ヲ  
放ツテ觀ル者ヲシテ驚嘆措ク能ハサラシメタノテアリマス  
我々ハ今次奉祝飛行ノ成功ニ依リ帝國及「イラン」國間ノ間隔カ大  
イニ短縮セラレタトノ感ヲ強クスルモノテアリマシテそよかぜハ兩  
國間親善關係ノ促進ニ偉大ナル貢獻ヲ爲シタト共ニ我國航空界ノ發  
達狀況ヲ廣ク世界ニ展示シ得タト思フノテアリマス  
今次親善飛行カ此ノ如ク素張ラシキ成功ヲ收メ得マシタノニ付キマ  
シテモ御稔威ノ鴻大ナルヲ思フト共ニ乗組員諸君ノ奮闘御努力ニ對  
シ衷心ヨリ敬意ト感謝ノ意ヲ表スル次第テアリマス

(日本標準規格B5)

外務省

F-0354

0331

一三	東 一 張長	( )
一	井上 重吉 殿	( 外務省 )
二	請 都 無 電 函 上	( )
三	楠 本 技 術 員	( )
四	岡 本 操 員	( )
五	杉 井 操 員	( )
六	永 沼 昭 彦 部 長	( )
七	片 岡 亨 部 長	( 大 日 本 航 空 )

外務省

一	大 久 保 國 隆 課 長	( 航 空 局 )
二	正 社 事 務 官	( )
三	正 社 事 務 官	( )
四	正 社 事 務 官	( )
五	正 社 事 務 官	( )
六	正 社 事 務 官	( )
七	正 社 事 務 官	( )
八	正 社 事 務 官	( )
九	正 社 事 務 官	( )
十	正 社 事 務 官	( )
十一	正 社 事 務 官	( )
十二	正 社 事 務 官	( )
十三	正 社 事 務 官	( )
十四	正 社 事 務 官	( )
十五	正 社 事 務 官	( )
十六	正 社 事 務 官	( )
十七	正 社 事 務 官	( )
十八	正 社 事 務 官	( )
十九	正 社 事 務 官	( )
二十	正 社 事 務 官	( )
二十一	正 社 事 務 官	( )
二十二	正 社 事 務 官	( )
二十三	正 社 事 務 官	( )
二十四	正 社 事 務 官	( )
二十五	正 社 事 務 官	( )
二十六	正 社 事 務 官	( )
二十七	正 社 事 務 官	( )
二十八	正 社 事 務 官	( )
二十九	正 社 事 務 官	( )
三十	正 社 事 務 官	( )
三十一	正 社 事 務 官	( )
三十二	正 社 事 務 官	( )
三十三	正 社 事 務 官	( )
三十四	正 社 事 務 官	( )
三十五	正 社 事 務 官	( )
三十六	正 社 事 務 官	( )
三十七	正 社 事 務 官	( )
三十八	正 社 事 務 官	( )
三十九	正 社 事 務 官	( )
四十	正 社 事 務 官	( )
四十一	正 社 事 務 官	( )
四十二	正 社 事 務 官	( )
四十三	正 社 事 務 官	( )
四十四	正 社 事 務 官	( )
四十五	正 社 事 務 官	( )
四十六	正 社 事 務 官	( )
四十七	正 社 事 務 官	( )
四十八	正 社 事 務 官	( )
四十九	正 社 事 務 官	( )
五十	正 社 事 務 官	( )
五十一	正 社 事 務 官	( )
五十二	正 社 事 務 官	( )
五十三	正 社 事 務 官	( )
五十四	正 社 事 務 官	( )
五十五	正 社 事 務 官	( )
五十六	正 社 事 務 官	( )
五十七	正 社 事 務 官	( )
五十八	正 社 事 務 官	( )
五十九	正 社 事 務 官	( )
六十	正 社 事 務 官	( )
六十一	正 社 事 務 官	( )
六十二	正 社 事 務 官	( )
六十三	正 社 事 務 官	( )
六十四	正 社 事 務 官	( )
六十五	正 社 事 務 官	( )
六十六	正 社 事 務 官	( )
六十七	正 社 事 務 官	( )
六十八	正 社 事 務 官	( )
六十九	正 社 事 務 官	( )
七十	正 社 事 務 官	( )
七十一	正 社 事 務 官	( )
七十二	正 社 事 務 官	( )
七十三	正 社 事 務 官	( )
七十四	正 社 事 務 官	( )
七十五	正 社 事 務 官	( )
七十六	正 社 事 務 官	( )
七十七	正 社 事 務 官	( )
七十八	正 社 事 務 官	( )
七十九	正 社 事 務 官	( )
八十	正 社 事 務 官	( )
八十一	正 社 事 務 官	( )
八十二	正 社 事 務 官	( )
八十三	正 社 事 務 官	( )
八十四	正 社 事 務 官	( )
八十五	正 社 事 務 官	( )
八十六	正 社 事 務 官	( )
八十七	正 社 事 務 官	( )
八十八	正 社 事 務 官	( )
八十九	正 社 事 務 官	( )
九十	正 社 事 務 官	( )
九十一	正 社 事 務 官	( )
九十二	正 社 事 務 官	( )
九十三	正 社 事 務 官	( )
九十四	正 社 事 務 官	( )
九十五	正 社 事 務 官	( )
九十六	正 社 事 務 官	( )
九十七	正 社 事 務 官	( )
九十八	正 社 事 務 官	( )
九十九	正 社 事 務 官	( )
一百	正 社 事 務 官	( )

外務省

一四	限部未之課長
一五	鈴木原男隊長
一六	久保田事務官 (外務省)
一七	柿崎事務官 ( )
出席	合計十六名

外務省

歐亞局

第一課

別紙添附

第一六九號

昭和十四年五月二十四日

昭和十四年六月廿三日接獲

外務大臣有田八郎殿  
 在蘭貢  
 領事 久我成



元よかせ機業組員歓迎ニ関スル件

イラン國へ派遣ノ元よかせ機ハ当地在官民ノ熱誠ナル  
 希望ヲ容レ特ニ帰途當業員ニ泊スルコトナリ五月  
 十八日無事当地「ミンカラドン」飛行場ニ着陸シ業組員  
 一同ハ同夜当地日本人会主催ノ歓迎会ニ登ミ翌十九  
 日早朝本差盤谷ニ向ヘリ  
 右日本人会主催歓迎会ニ関スル新聞記事中五月

在蘭貢日本領事館

改  
 第二編

麻老ら



二十三白「ラングインデーリ」ニ「ス」紙ニ現ハレタル記事ニ部何  
 等御参考迄ニ別紙ノ通り送附ス御査閱相成度ニ  
 尚右新聞記事切後ノ一部ハ透信省航空局大久保  
 國際課長へ転交方可然御取計相成度ニ  
 本信寫送附先  
 在イラン公使

在蘭貢日本領事館

F-0354

0334

Rangoon Daily News, May 23, 1939.

### CREW AND PASSENGERS OF "SOYOKAZE" ENTERTAINED

#### JAPANESE CONSUL'S WELCOME

The Japanese Community in Rangoon accorded an enthusiastic reception to members of "Soyokaze", which flew to Iran on a good-will mission, at the Rangoon Japanese Association Hall on Thursday evening.

Mr. R. Hayakawa, President of the Rangoon Japanese Association expressed the pleasure of the Japanese Association as well as the entire Japanese Community in Burma in welcoming the crew and passengers of the "Soyokaze".

Mr. S. Kuga, the Japanese Consul, then addressed the honoured guests. A gist of his speech is given below:—

"It is with great rejoicings and pride that we, the Japanese Community in Burma, welcome you here this evening on your way back home. You have successfully carried out the important mission with which you were charged, of conveying the Japanese nations felicitations on the historic occasion of the union of two great Muslim Royalties in the Near East by the marriage of His Royal Highness the Crown Prince of Iran to the Royal Princess of Egypt.

In the eyes of us, your fellow countrymen, your achievement is great indeed.

First your good-will flight has shown Japan's sincere friendship towards the two great Muslim Nations.

Secondly you have given demonstration of a purely Japan-made plane, piloted exclusively by the Japanese.

And thirdly the dispatch of "Soyokaze" at this stage when Japan is still engaged in a gigantic reconstruction work on the Asiatic Continent proved beyond all doubt the immense reserve power of the Japanese Nation.

We sincerely wish you, gentlemen, God-speed and good luck in your return home."

#### MR. OKUBO'S REPLY

Mr. T. Okubo, Chief of the International Section of the Air Department of the Japanese Government replied to Mr. Kuga as follows:—

"On behalf of the crew and passengers, I thank you all for kindly extending to us such a warm reception, the like of which we have not experienced so far. I agree with your opinion regarding the significance of our good-will flight to Iran and I can assure from our personal experience that, our visit to Iran has contributed greatly to the already friendly relations existing between Iran and Japan. The Royal Family, the Government officials and the people of Iran all extended to us hospitality and shown appreciation of our humble work.

#### IRAN RAPIDLY MODERN-

##### IZING

We were agreeably surprised to find an Iran entirely different from what we thought of that country. Iran is rapidly modernizing, with amazing speed, in all the branches of human activities.

I thank you, ladies and gentlemen, once again for your kind reception which we shall ever remember gratefully."

電信課長



大臣

次官



東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和14 一五九四四 略 廣東 五月廿六日後發 本省 廿六日夜着

岡崎總領事

歐

第二八七號

本官發臺灣外務部長宛電報

第八二號

そよかぜ號二十六日午後三時半無事到着セリ二十七日午前七時貴地

向ケ出發ス

暹へ轉電アリタシ

大臣へ轉電セリ

分類 F110.1.3

外務省

記録付本邦人航空関係雜件

情報部

歐亞局

普通第一四三號

昭和十四年五月二十六日

在カルカタ(シムラ)

總領事 吉田 丹一

外務大臣 有田 八郎 殿

微風號ニ關スル記事切抜送附ノ件

微風號往路及歸路ニ際シ當地新聞ニ掲載セラレタル關係記事竝ニ寫眞切抜送付ス御查收相成度

第一課

新聞切抜添付

昭和十四年六月廿七日



この席に  
用事ある  
方は  
お呼びかけ  
を

六月十九日  
席相成度  
此段御通知  
申上候

回 章

「イラン」皇太子御成婚祝賀飛行ノ「そよかぜ」號ニテ「イラン」ニ往復セル軍令部江口海軍少佐ノ報告會ヲ左ノ通開催致候ニ付御出席相成度此段御通知申上候

六月十九日（月）十二時半（晝飯ノ用意アリ）  
第八會議室

西 歐 亞 局 長 殿 欠  
歐 一 安 東 課 長 殿 出

外 務 省

（日本標準規格B5）

柿 坪 事務官 殿 出  
島 事務官 殿 出  
太 田 通譯官 殿 出  
油 橋 領 事 殿 出  
村 瀬 副領事 殿 出  
廣 岡 副領事 殿 出  
歐 二 山 田 課 長 殿 出  
德 田 事務官 殿 出  
歐 三 石 澤 課 長 殿 欠（出張ノ旨）  
東 光 事務官 殿 出  
通 三 野 勤 任 事務官 殿 出

外 務 省

（日本標準規格B5）

F-0354

0337

寫送先

秘書官 會計 文書 儀典 人事 調查 文報 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長

分類 F.1.10.1.3

昭和14 一九三五九 暗 本 省 六月廿六日 後發 通

有田外務大臣

第一二三號

往書第一一二號ニ關シ

其ノ後第三部長トモ) 協議ノ結果同部長ト儀典局長トノ打合ニ依リ  
 本使ヨリ同局長宛私信督促スルコトニナリ十八日之ヲ發送シ其ノ後  
 モ督促シ來リタル處廿四日同局長ヨリ私信ヲ以テ右兩氏ニ對スル勅  
 章及乘員ニ對スル「メダル」ニ付テハ所定ノ手續ヲ執リタルモ勅許  
 ヲ得ル能ハサリシヲ遺憾トスル旨回答越セリ然ルニ右ハ往電第八七

本邦人批空屬原雜件

永岩	事務官	殿	出
通四	井上	課長	殿
佐藤	事務官	殿	出
文二	市河	課長	殿
箕輪	事務官	殿	出
調三	浦	課長	殿
佐々木	事務官	殿	出
鈴木	課長	殿	出
調二	重松	課長	殿
調一	田	課長	殿

外務省

日本標準規格B5

發信用執務用		
主信	/ /	
附屬	甲	
	乙	
	丙	
	丁	
備考	分類 F.1.10.4.3	

公 信 案	付爲御參考右茲ニ送付ス	主 管 主 任 第 一 課 長	文書課發送 昭和拾四年七月五日 發送済 淨書	正 校 ( <small>原稿</small> ) ( <small>淨書</small> )
	本信送付先 (昭和十四年 五月二十四日附在蘭領事館來信) 第一六九號寫字附用書寫)		歐一普通第 四〇三號 昭 昭和拾四年七月四日 日附 附屬	
外 務 省	本件ニ關シ今般在荷領事館ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ 在「カルカッタ」領事館ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ	受 信 人 名	航空局 大久保國際課長	發 信 人 名
		件 名	蘭領事館於「カルカッタ」機組員歡迎ニ關スル件	記 録 名

4 109

電信寫

辦末段ノ先方ノ言明ニ反スルニ付更ニ總務局長ヲ通シテ交渉中ナリ  
尤モ乘員ニ對スル「メダル」ニ付テハ先般來ノ督促中同様ノ他國  
（實際上伊太利ノミ）ノ乘員ニ與ヘサリシニ付困難ナルヤノ口吻ヲ  
涉ラン居タルコトハア）ル）モ之ニ對シテモ尙表謝ノ意味ニテ何等  
カ方法）無キヤヲ交）涉中 （了）

爲  
録者  
原書B-308/PE  
日本近新修好通商  
條約(件々)

分類 F.1.10.0.3

記録件名  
ソコカセ

昭和14 二一〇七六 暗 本 省 七月八日前發 九日後着

有田外務大臣 中山公使

第一二八號 五日外務大臣ヲ往訪大臣ヨリ修(好)條約御委任狀未タ下附ナキヤ

ト問ヘリ本使ヨリ (一) 往電第一二一號「イ」實業家本邦視察談ニ付回答ヲ求メタル處二

三日中ニ確答スヘシト言ヘリ (二) 往電第一二三號ニ關シテハ公式ニ宮中ヘノ *Command* ヲ通シ本件經緯

ヲ説明シ果シテ敍勅カ執奏セラレ之ニ對シ勅許ヲ拒絕セラレタル  
コトカ眞實ナリヤ否ヤヲ突止ムルト共ニ再詮議方運動シ置キ右往  
訪ニ於テ大臣ニ本件公式經過ヲ説明今後執ルヘキ處置ニ付懇談シ  
タル處大臣ハ電話ヲ以テ儀典局長ヲ呼ヒタルカ會談中同局員出頭  
何事カ報告セルカ大臣ハ右報告ヲ翻譯シ本件勳章及「メダル」ト

外 務 省

(日本標準規格 B5)

モ既ニ用意出來居ルニ付明日公使館ニ送ルヘシト答ヘタリ尙往電  
儀典局長ノ私信トノ關係ニ付テハ胡魔化シノ辯明ヲ爲シ居タルモ  
右ノ通り實施スルナラハ過去ヲ争フ必要無キニ付其ノ儘聞キ流シ  
置ケリ (了)

外 務 省

(日本標準規格 B5)

F-0354

0340

照合票

記録  
件名

政務第 六七三 號

昭和十四年拾月拾五日

發信者 外務次官

受信者 藤原航空局長

件名

名 凡風号 飛艇 對 於 伊 朗 國 勳 章  
及 ナタル 接受 關 係 件

原書ハ左記ニ在リ

記

門ノ類ノ項ノ目 2 號 1 30 外國勳章 本邦人ノ贈與  
關係 雜件

(分類 F 1. 10. 03 )

昭和拾七年五月拾貳日接受  
別紙添附

情一普通第一八一號

昭和十七年四月十六日

在佛印日本特派大使府  
事務總長 栗山

外務大臣 東郷茂德 殿

朝日及大阪毎日新聞社ノ新聞通信聯絡飛行ニ  
關スル件

客年十二月歐二普通第三九號ヲ以テ御依頼越アリタル朝日及ヒ大毎  
兩新聞社ノ新聞通信聯絡飛行ノ件ニ關シテハ大東亞戰勃發以來各社  
共航空機ハ軍徵用機トシテ飛來スルモノナレハ、本件許可ハ實際上  
不要ナルヤニ思量セラレタル點アルモ、爲念、當府情報部長人名ニ  
於テ、朝日及大毎兩社航空機ノ佛印上空飛行竝ニ河内着陸ニ關スル  
佛印總督府ノ客年六月十二日附許可ヲ客年十二月十一日以降六ヶ月

在佛印日本特派大使府





間延長方、竝ニ兩社機ノ河内ノミナラス西貢ニ於テモ着陸許可方、  
總督府ニ申入レ置キタル處、今般總督府ヨリ別添書翰寫ノ通原許可  
附帶條件附ニテ、兩件共承諾セル旨回答越セルニ付キ茲許御報告申  
進ス  
本信寫送付先 西貢

在佛印大日本特派大使府

F-0354

0342

COPIE

N° J.27

Hanoi, le 22 Janvier 1942.

Le Consul Général N. OGAWA,  
Directeur du Service d'Information  
à la Mission Japonaise,  
à  
Monsieur le Capitaine FRANCONY  
au Commissariat aux Relations Franco-Japonaises  
à HANOI

Mon Capitaine,

Maisant suite à l'entretien que M.T. YAMASITA, Chancelier a eu hier matin avec vous, j'ai l'honneur de vous prier de bien vouloir intervenir pour que l'autorisation donnée aux avions des journaux "Osaka Mainichi" et "Asahi" à survoler l'Indochine et atterrir à Hanoi pour leur reportage (Réf: Lettres N°4074-SE et 4435-SE/AC de M. le Gouverneur Général datées respectivement du 3 et du 18 Octobre 1941) et expirée le 11 Décembre dernier, soit prorogée encore de six mois.

D'autre part, je vous serais très reconnaissant si vous vouliez bien faire une démarche pour que les avions des Journaux ci-dessus puissent atterrir, en outre de Hanoi (Gialam), à Saigon (Transonnhut).

Avec mes sincères remerciements anticipés, je vous prie d'agréer, Mon Capitaine, l'assurance de ma considération très distinguée./.

Le Consul Général N. OGAWA

COPIE

LE GOUVERNEUR GENERAL

Hanoi, le 9 Février 1942.

N°460SE/AC

Monsieur le Consul Général,

Par lettre N°J.27 du 22 Janvier 1942 vous avez demandé que l'autorisation précédemment donnée aux avions des journaux "Osaka Mainichi" et "Asahi" de survoler l'Indochine et d'atterrir à Hanoi, autorisation expirée le 11 Décembre dernier, soit encore prorogée pour une durée de six mois.

Vous demandez en outre que ces mêmes avions puissent atterrir non seulement à Hanoi (Gialam), mais encore à Saigon (Transonnhat).

J'ai l'honneur de vous faire connaître que j'accorde la prorogation demandée sous les mêmes réserves que celles indiquées par l'autorisation initiale (cf: ma lettre N°2282-SE/AC du 12 Juin 1941), l'itinéraire Hanoi-Bangkok étant toutefois autorisé via Saigon, en outre de l'itinéraire direct.

En ce qui concerne les atterrissages à Hanoi et à Saigon, je vous signale que les aéroports où doivent atterrir les avions civils français ou nippons non militaires sont actuellement ceux de Bach Mai, pour Hanoi, et de Bienhoa pour Saigon. Toutefois, si les Autorités militaires japonaises compétentes y consentent, je n'ai pour ma part aucune objection à formuler à ce que les avions des journaux en cause atterrissent sur les aéroports de Gialam et de Transonnhat.

Je vous prie d'agréer, Monsieur le Consul Général, l'assurance de ma considération la plus distinguée./.

Par Délégation  
Le Secrétaire Général  
du Gouvernement Général de l'Indochine

signé: GAUTIER

A Monsieur le Consul Général N. OGAWA,  
Directeur du Service d'Information  
à la Mission Japonaise.

F-0354

0343